

資料2 ボランティア・見学

保育実践の場でのボランティアや見学については、入学後から保育実習までの間、そして、実習後から卒業までの間でそれぞれ意味をもつだろう。養成教育の中で、見学やボランティアについては、ボランティア先に実習配属するなどの実習配属に関する工夫以外にも、レポート作成による施設理解、日誌の書き方の学びにつながる、環境整備の仕方などを始め実習施設の習慣に慣れる、施設のイメージが良い方向に変化する、学生の成長につながる、高い意識をもって活躍できる人材の育成につながる、就職につながるといったポジティブな効果が期待されている。

実際に、ボランティアや見学はこれまで学生が学んだことをもとにさらに深めていける体験となるであろう。そうしたことから、ボランティアや見学を学内・外での学習として単位化している養成校もある。本資料では、ボランティアや見学等、学外での学びについてお伝えする。

なお、本資料は東北ブロック研究委員会の調査結果に基づくため、「2. ボランティアの時期、ボランティア先の探し方」以降についてはボランティアを中心とした内容である。

1. ボランティアの位置づけ

(1) 入学後から実習前まで

入学直後から数か月以内に保育実践の場についてのイメージを形成し学習意欲を向上させる効果を期待して実施されたり、保育実践の場に慣れていくことを目的として継続的にこなわれたりする。また、実習前に保育の場での体験をすることは、学内の学びを実践につなげていく機会になったり、実習への不安を低減したり、これから実習をする施設に慣れたり、実習の準備をすることなどに期待されて実施される場合が多いだろう。例えば、実習先や保育実践の場に参加して、レポートを書くことにより理解をすることや、施設について調べた上で施設の生活に参加することでよりよい実習目標の設定を行うことや、日誌の書き方や指導計画案の作成などの学びにつなげていくことなどが考えられる。

また、初めて入る保育実践の場で、学生は保育者等の社会人の姿を見て、自分も実践の場に社会人としての基本を身につけていく意識をもつのではないだろうか。

(2) 実習後から卒業まで

実習で学んだことを活かして施設での活動に参加したり、環境整備・構成について大切なことを意識しながら動いたり、保育者の動きなどに合わせて大切なことを考えて動いたりする機会であったり、実習中に感じていた疑問を考究していったり、実習中の学びを土台として保育の場・保育者・利用者及び子どもに対する理解を深めていく機会となることが期待される。

また、就職活動の一環としてボランティアに入ったり、経験したことのない施設種別にボランティアに行ったりして新たな出会いによる学びを得ながら、学生が将来のキャリアについて考える機会にもなるだろう。

2. ボランティアの時期、ボランティア先の選定

ボランティアの時期としては、授業時間を利用したり時間割を調整したりして講義期間中に実施する、

授業時間とは別に夏休み等の長期の休みを利用して行う場合がある。参加日数は、数時間から数日、数週間にわたる場合があるだろう。

ボランティア先の選定は、授業の一環として養成校として附属施設に依頼したり養成校との信頼関係のある施設に依頼したりする、養成校が設置しているボランティアセンターを通して行う、養成校がボランティアサークルを設置してサークルに参加する学生がボランティアを行う、養成校や養成校教員と信頼関係を構築している施設に依頼する、施設から養成校へのボランティア依頼を学内に掲示して学生が応募する、学生が自分の自宅近くや帰省先で自主的に探して依頼する、学生主体のボランティアサークルがあり学生がそこに所属してボランティアを行う等多岐にわたる。学生が自主的に探す場合には、事前の報告を学生に求めたり、必要に応じて依頼状や推薦状を養成校や養成校教員が作成したりする。

東北ブロック内では、学校が体制を整えてボランティアを実施している養成校が 12 校、学生が個人でボランティアを実施している養成校が 22 校あった。

3. 学生が参加するきっかけ、ボランティアの事前・実施中・事後の教育活動

自主的にボランティア先を探す場合や授業の一環として実施する場合を除き、学生はどのようにボランティアに参加しているのだろうか。東北ブロック内では、教員が学生に声かけや紹介をする、学生にチラシを配布したり学内の掲示板で知らせたりする、ボランティアを推奨したりボランティアをするように指導したりする、学生のボランティア希望を受けて依頼（仲介）するといったボランティアをする機会をつくる教育活動がなされている。

また、ボランティアの実施にあたり、授業として実施する場合には事前指導や引率などがあり、授業の一環かどうかにかかわらず学内でオリエンテーションやボランティア先でのオリエンテーションが行われる場合があるだろう。引率のない場合、ボランティア中に実施状況や学生の様子を確認するため教員が訪問する場合もある。

ボランティア後に、レポートや記録の提出などの報告書の提出や学生に口頭で確認したりすることで、実施状況を把握することが可能である。

4. 東北ブロック内の主なボランティア先、ボランティア内容

東北ブロック研究委員会の調査（2017）では、保育実習が可能な児童福祉施設に加え、幼稚園、おもちゃライブラリーなど幅広く行われている実態が明らかになった。中でも、ボランティア先として最も多かったのは障害者施設であり、次いで、障害者施設、発達支援センター・施設であった（表 1）。また、ボランティアの内容については、イベント・行事などが多かった（表 2）。学生が得る学びは、イベント・行事などにおいて準備段階からかわるか、当日ボランティアになるかによっても異なるだろう。こうした活動に加え、もし可能であるならば、日々の生活の上にイベント・行事があること、イベント・行事の意味（例えば、利用者にとってのイベント・行事、地域とのつながり）を考えるようなことと結びついた学びもなされれば、より保育者の仕事の理解につながるという点でよいのではないだろうか。

ボランティアを教育活動の一環として実施される場合には、学生自らの意思に基づくというボランティア本来の意味を大切にしながら、よりよい実践につなげていきたいものである。

表 1 施設実習指導の一環としてのボランティア先(回答全 27 校) ※複数回答有

分 類	回答全体 (n=27)	回答校割合	分 類	回答全体 (n=27)	回答校割合
障害者施設	18	66.7	学童保育	2	7.4
障害児施設	9	33.3	児童館	2	7.4
発達支援センター・施設	6	22.2	高齢者福祉施設	1	3.7
養護学校・特別支援学級	2	7.4	保育所	3	11.1
乳児院	1	3.7	幼稚園	1	3.7
児童養護	6	22.2	避難者学習支援	1	3.7
児童自立支援施設	2	7.4	おもちゃライブラリー	1	3.7
母子生活支援	1	3.7	不明	5	18.5
子育て支援事業	1	3.7	回答数合計	46	

表 2 ボランティア内容(回答全 27 校) ※複数回答有

ボランティア内容の分類	回答数	(%)
イベント・行事 ^{*1}	22	81.5
学習	2	7.4
預かり保育	1	3.7
児童デイ	2	7.4
訪問	1	3.7
学童保育	1	3.7
イベント開催	1	3.7
依頼内容	1	3.7
内容不明	5	18.5

*1 イベント・行事:

お祭り、運動会、きょうだいイベント、スポーツ大会、文化祭、イベント補助、夏休み旅行引率など